後援会だより

第 27 号
2019 年 3 月 15 日発行

編集発行／鹿児島大学法文学部後援会

本誌の案内

○ごあいさつ
後援会会長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
法文学部長（後援会顧問）・・・・・・・・・・・・・・・・・1
○専門職大学院報告
臨床心理学研究科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
○就職支援事業
平成30年度就職支援室活動報告　・・・・・・・・・・・・・3
就職活動にかかる交通費の一部支援事業・・・・・・・・・・4
○主な支援事業の成果報告・・・・・・・・・・・・・・・・・4
留学準備金支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
各種実習への支援（国内）・・・・・・・・・・・・・・・・・5
各種実習への支援（国外）・・・・・・・・・・・・・・・・・6
大学院生の学会発表への支援・・・・・・・・・・・・・・・・7
○平成30年度保護者アンケート集計結果　・・・・・・・・・・8
○平成30年度後援会役員一覧　・・・・・・・・・・・・・・・16

後援会会長ごあいさつ

法文学部後援会会長　堂路　温幸

会員の皆様におかれましては、後援会の運営にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げますとともに、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

さて、約30年続いた「平成」が幕を下ろそうとしています。昭和天皇が崩御されました1989年を思い起こしますと、中国では天安門事件が起こり、ドイツではベルリンの壁が崩壊し、米国のブッシュ大統領とソ連のゴルバチョフ書記長により行われたマルタ会談で米ソ冷戦の終結が宣言されるなど世界的に見ても大きな転換の年であったことや、当時の日本では不動産バブルがピークで、日経平均株価も３万9000円近くを記録していたことなどが強く印象に残っております。

私自身、平成３年に鹿児島大学法文学部を卒業しておりますが、バブル崩壊の直前とはいえ、就職活動におきましては、いわゆる「売り手市場」で種々の企業からの積極的なアプローチを受ける贅沢な状況でありました。平成30年の就職状況も学生にとりましては良い状況であったように聞いております。

時代の流れの中で、良い時もあれば、そうでない時もあることには逆らえませんが、ここ鹿児島大学の恵まれた環境と先生方、スタッフの皆さまのご支援を受けて、一人ひとりの学生が力をつけて、地域や社会のリーダーとして活躍できる人材へと成長できることを切に願う次第です。

私ども後援会では、学生の学習をはじめとする活動を後方からサポートしていきたいと考えておりますので、引き続き後援会へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、この春、鹿児島大学を卒業される皆様、鹿児島大学に入学される皆様及び保護者の皆様に心からのお祝いを申し上げますとともに、会員の皆様とご家族のご健勝、ご多幸を心よりご祈念申し上げます。

法文学部長ごあいさつ

法文学部長（後援会顧問）　高津　孝

昨年11月に鹿児島大学法文学部編の『大学的鹿児島ガイド−こだわりの歩き方』を京都の出版社である昭和堂から出版しました。南日本新聞（12月23日）にも書評が掲載され、ご存知の方も多いかと思います。これまで法文学部が前面に出て一般向けの本を出版したことはありませんでした。し

たがって、これは初めての試みと言えます。実は、『大学的鹿児島ガイド』を鹿児島大学法文学部で出版しませんかというお話があったのは、昨年の１月のことです。すぐに法文学部同窓会にご相談して資金的援助をお願いし、３月に昭和堂の編集担当者とお会いし出版を決めました。その時、出版社の方にお願いしたのは、何とかNHKの大河ドラマ「せごどん」放映中に出版をということです。「せごどん」ブームを利用して鹿児島を全国に知ってもらおうと期待してのことです。早速、法文学部の先生で鹿児島の地理や歴史に詳しい方々に呼びかけ、３ヶ月で原稿をまとめてくださいとお願いしました。編集のまとめ役は渡辺芳郎教授、小林善人准教授にお願いし、全ての原稿に目を通していただきました。出版決定後、半年で本が出版されるというのは極めて異例のことで、特に原稿が遅いことで有名な大学関係者から締め切り通りに原稿が集まったのは関係者の驚きでもあります。内容は、できるだけ多くの方に読んでもらえるように、短くて分かりやすい読み物「コラム」を多数配置し、視覚に訴える写真、図版、地図を多く掲載しました。鹿児島をよくご存知の方でも、これは知らなかったという内容が詰まっています。本書は、大学の地域貢献の一端でもありますし、法文学部の教員がこういう活動をしているということを保護者の皆様に知ってもらう良い機会でもあります。ぜひ手に取っていただければと願っております。

専門職大学院報告

◎臨床心理学研究科

鹿児島大学大学院
臨床心理学研究科研究科長　**中原　睦美**

後援会の皆様には、平成19年度の臨床心理学研究科究科設置以来、多大なご支援を承り厚く御礼申し上げます。臨床心理分野の専門職学位課程として認証評価機関である公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会による２回目の適合審査により平成34年３ 月31日まで認証された自負を持ちつつ、国家資格である公認心理師にも対応した平成30年度の活動報告をさせていただきます。

１. 国家資格「公認心理師」への対応について

本研究科の教育主眼である臨床心理士養成に加え、平成30年度入学生からは該当者には公認心理師受験資格を出せるカリキュラムを開始しました。加えて、人文社会科学研究科臨床心理学専攻等修了生の平成14年度生まで遡り該当者への特例措置対応を行いました。９月９日に第１回試験が終わり、教員スタッフ全員と平成30年３月修了生94.4%が合格しました。

２. 教員組織の充実

熟達者である教授６名と准教授３名で設置された後、断続的に教員の異動があります。今回、専門職大学院規則や大学のご理解により平成30年度４月に久保陽子教授、吉村隆之准教授の２名の実務家教員が着任されました。「教員が替わっても教育の質を担保する」本研究科の理念に基づき、早速、久保先生は実習委員長という大役を担い、吉村先生は教育領域での行政との連携による新たな実習先開拓に着手するなど研究科の教育布陣が一段と強化されました。

３. その他の活動

平成30年度も毎月のFD会議に加え、文部科学省高等局専門職大学院室野村舞係長をお招きしたFD研修会、籾井農学研究科長・寺田副研究科長をお招きした科研費研修会を開催しました。さらに、教員・学生対象に京都大学名誉教授藤原勝紀先生に心理臨床の根幹及び臨床心理士と公認心理師の相補した共存共栄に関するご講演をいただきまし

た。また、例年通り、心理臨床教育の中核として学内実習施設である附設心理臨床相談室にて地域住民の外来相談を通した実務教育及び地域貢献活動を継続しています。以上の教育成果として、就職率100％を維持し、今回の臨床心理士試験も平成30年３月修了生の94.4％が合格し、全修了生の98.0％が取得したことになりました。学生・教員の努力に加え後援会からのご支援の賜物と存じます。今後も高度専門職業人である臨床心理士養成を軸に該当者には公認心理師受験資格提供を行い、地域社会に貢献できる質の高い臨床心理士の養成を目指して邁進していく所存です。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

臨床心理学研究科 HP も是非ご覧ください。

http://cp.leh.kagoshima-u.ac.jp/

就職支援室より

◎平成30年度就職支援室活動報告

就職支援室長　**藤田　紘一**

学生優位な「売り手市場」が続く中、平成31年3月卒業生の12月1日時点の就職内定率は73.4％で、前年同期に比べ3.4ポイント下回る結果となりました。これは、学生優位な「売り手市場」という環境に慣らされ、就職活動解禁前にやるべき企業研究や企業訪問等をスルーしていることが、主な要因と思われます。今回は、就職内定率に影響を与えるインターンシップに参加する意義について紹介したいと思います。

１. 体感的に企業理解・業種理解ができる

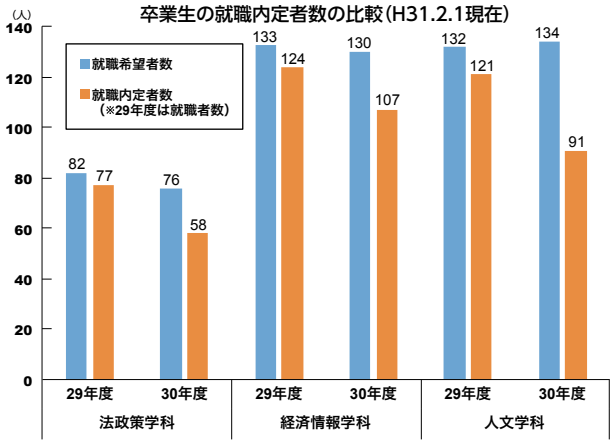
インターンシップでは、実際に現場で行っている業務を模擬的に体感するものが多い印象です。これらのワークを体験することで、業界研究本や企業のホームページといった書面では読み解くことのできなかった情報に触れることが可能です。疑問に思ったことを社員の方に直接質問することもできるので、様々な情報を得ていく中でこの業界・企業が自分に適しているのかどうかを見定めるいい機会になるといえるでしょう。

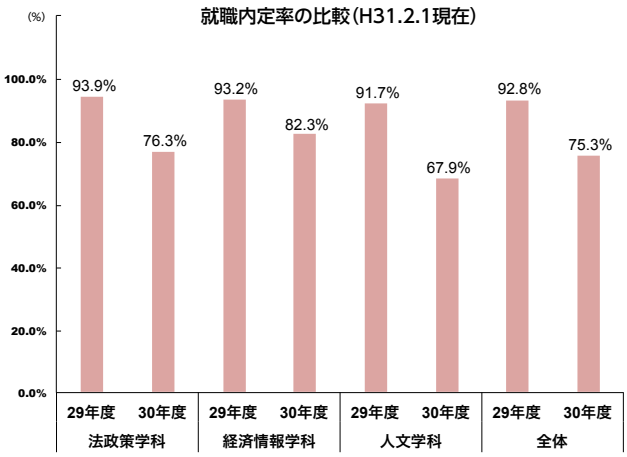
２. 実際の選考において優遇される場合が多い

インターンシップで優秀な成績を収めた学生には、内定選考の優遇措置が施されることが多い模様です。事実、いざ選考を終えて内定式で学生たちが顔合わせをしてみると、内定者の多くがインターン経験者であったという話はよく聞きます。インターンに参加したうえで志望動機を語れると、自信の経験として非常に説得力のある内容が出来上がります。そのため、エントリーシートの提出から内定を得るまでの間に、インターンシップに参加したという経験は必ず役に立つといって過言ではないでしょう。

３. 就職活動の前に、面接やエントリーシートの練習ができる

これまでは、インターンシップに“参加する”意味合いについて紹介してきましたが、たとえ選考に落ちてしまったとしても就職活動本番の前に、面接やエントリーシートの提出といった就職活動の基盤なる力を磨くことが出来ます。これらの力は場数を踏んでいくことで身につくものであり、就職活動が始まる前に、自らの実力を測ることのできるインターンシップの選考を受けるということは大変重要です。就職活動をどうすればいいか分からず、将来の自分に不安を感じている人でも、まずインターンシップの説明会に参加し、業界・企業理解を深めていき、さらにはエントリーシートの提出や面接を経験することで、自分の能力を高めることができるでしょう。





◎就職活動に係る交通費の一部支援事業

法文学部後援会では、学生が就職活動中に支出した交通費の一部を補助する事業を行っています。少しでも学生の負担を軽減できればと願っています。ここでは、この支援事業を利用して就職活動を行った学生からの報告を掲載しました。学生たちの就職活動の現状を知る参考にしていただければ幸いです。

◆交通費支援を受けて

法政策学科４年　**永野　貴子**

私は、公務員志望であったため、大学３年生の５月から公務員予備校に通い始めました。そこで大学の講義と並行しながら、公務員試験に向けての勉強をしていました。週５日ほどは予備校の授業があったため、ほぼアルバイトは出来ず、また、予備校に通うために多額の授業料も必要でした。

就職活動も本格化してきた大学３年生の３月、私の第一志望である官庁の説明会がありました。第一志望であったことと、他県の官庁のため、鹿児島では中々情報が入って来にくいとの理由から、その説明会に参加しました。実際にその説明会に参加してこれまで知らなかった情報を得ることが出来ました。また、今現在働いていらっしゃる方の生の声を聞くことが出来、私はやっぱりここで働きたい、と強く思いました。私はこの説明会に参加して、面接のネタになる情報も得ることが出来、本当に良かったと思っています。

この説明会は他県であったため、移動にもお金がかかりますが、その一部を後援会から支援して頂き、アルバイトも出来ていない私には本当にあり難かったです。私はこの支援制度を学部の掲示板で知りました。内容は後援会に加入している就職活動中の学部生に対して企業説明会参加、採用試験受験、合同企業説明会 (ガイダンス) 参加に係る交通費の合計が5000円を超えた場合に１人につき5000円の補助を行うというものでした。

私が受けた中で最も多い試験は最終的合格まで４回試験がありました。試験を受けるために往復の交通費と前日から宿泊する宿泊代が毎回かかってきます。民間企業と違って、企業からの一部負担もないため、全て自分で払わなければなりません。また、いくつもの試験を並行して受験するため、交通費や宿泊費もかさんできます。私は計８回県外に試験を受けに行きました。何もかもいっぱいいっぱいの中で、後援会からその一部を支援して頂けたことは私にとってプラスになりました。本当にありがとうございました。

◆交通費支援を受けて

人文学科４年　**武市　智暉**

私が本格的に就職活動を始めたのは、３年次の２月頃でした。業界、職種はすでに決めていたので、情報を集めて説明会、セミナー等に参加しました。志望する企業はすべて東京勤務で、説明会やセミナーもほぼ全て東京開催だったので、２～３月の間で鹿児島－東京間を３往復ほどしました。それだけでかなり高額な交通費がかかるうえ、宿泊費や食費などのこともあるので金銭面の負担は大変重いものとなっていました。そのような時に、後援会が実施する交通費一部支援について知ったので、すぐに申し込みました。一人5000円までという内容で、少しでも金銭的負担を削減したかった自分としては、とてもありがたかったです。

４月に面接が始まると、東京に滞在する期間が長くなってきたので、鹿児島 - 東京間を往復するよりも東京に滞在し続ける方が費用を抑えられると思い、長期間東京に滞在することを考えました。当初は、マンスリーマンションを借りるつもりでしたが、東京に鹿児島大学の宿泊施設があり、１泊1500円で宿泊できることを知ったので、そこを利用させてもらいました。幸い授業はゼミのみで、担当の教授からの了承も頂けていたので５月中は、ずっと東京に滞在することができました。結果的に５月下旬には、就職活動を終えることができました。東京のみでの就職を考えていた自分としては、交通費の支給はもちろんのこと、宿泊施設を利用できることは非常に助かりました。

本当にたくさんの方々のお陰で、円滑に就職活動を行うことができました。この場をお借りしてご支援してくださった皆様に御礼申し上げます。

主な支援事業の成果報告

法文学部後援会では、会員の皆さまからお預かりした会費を、学生が国内外で行う調査実習の旅費や、教育・研究活動の経費の補助に活用しています。ここでは、その一部を成果報告としてご紹介します。

◎留学準備金支援

◆デンマーク・フムレベック KROGERUP HØJSKOLE

人文学科4年　**吉田　智貴**

私は2016年８月から10月までデンマークにあるKROGERUP HØJSKOLEで学びました。この学校にはいくつかのコースがありましたが、その中でも私は外国人向けのCrossing Bordersというコースに属し、国際問題をメインに学びました。この留学での私の目的は、英語力の向上と、様々な国際問題を学び、今後の学業に発展させること、またデンマークのバドミントンチームに所属してバドミントンの練習に励むことでした。自身初めての海外で学ぶという経験だったので、あらゆることが新鮮で、驚くような文化の違い、自身の語学力不足による、コミュニケーションのもどかしさなどから多くのことを学べ、成長につながったと思います。デンマーク人の生徒たちは流暢な英語を話せるため、英語をメインに生活していましたが、自分のいた学校の９割の生徒はデンマーク人だったので、学校内ではデンマーク語が飛び交っていました。ここで学んだことは現地語の大切さです。留学に行く前、私は英語を向上させたいという思いが強く、現地語であるデンマーク語、デンマークの歴史など深く勉強していませんでした。そのような私が、わずかながら知っていたデンマーク語で話すと、デンマーク人たちはとても嬉しそうにしていました。留学とはその地で学ぶということです。その土地の言語や文化、歴史を尊重し、学ぶということがいかに大切かを学びました。将来海外で学んだり、働いたりする機会がある際は、現地の言葉、文化、歴史を大いに学んで、生活したいと思います。

KROGERUP HØJSKOLEでは様々なレクチャーがあり、中でも週に２回ほどアウトドアの授業もありました。学校は海に近かったので、シーカヤックをしたり、山でマウンテンバイクに乗ったり、走ったり、キャンプファイヤーをしたりと、これをきっかけに私もアウトドアが好きになりました。またCrossing BordersではNGOの団体も協力して授業が構成されており、激しい内戦が行われているシリアや、エチオピア、タイといった様々な国籍のゲストスピーカーの話を聞く機会がありました。また国連の持続可能な開発目標について学び、コペンハーゲンにある国連事務所を訪問したり、地球温暖化の影響について学んだりと、最先端の国際問題を学ぶことが出来ました。そして、地元のバドミントンクラブに所属し練習をさせてもらい、言葉は違ってもスポーツで分かり合えるということを実感しました。

この経験で学んだ多くのことが私の将来に大きな可能性をもたらしてくれました。海外で色々な経験を積み、学びたいという思いが強いため、今後も将来を模索しながら、教育や国際関係などの分野で活躍できるよう、より自分を高めていこうと思います。

◎各種実習への支援（国内）

◆臨床心理地域援助実習を通じて学んだこと

臨床心理学研究科2年　**種子　春華**

私は今回、鹿児島県立姶良病院にて６日間実習をさせていただきました。鹿児島県立姶良病院は「安らぎと幸せを」を理念に掲げる県下唯一の公立単科精神科病院であり、指定入院医療機関として医療観察法病棟も持ち合わせています。今回は私にとって初めての医療領域での実習で、身体面と精神面へのアプローチを同時に行うことのできる医療現場において、臨床心理士はどのような働きをし、どのような役割を担っているのかという点について学びたいと思い、実習に臨みました。実習では実際に患者さんたちと作業療法活動への参加、医療観察法病棟の見学、依存症ミーティングの見学等、大変貴重な経験をさせていただきました。私は以前から罪を犯した人の社会復帰支援に興味があったため、実際に医療観察法病棟を見学させていただいたことで、より興味が深まったように思います。また、他職種の中で臨床心理士としての専門性を活かし、患者さんやそのご家族の方々への心理的支援を行っていくことの重要性を感じると共に、１人の人を多面的

に捉え、様々な可能性を考慮しながら支援していくために、連携の必要性を実感しました。

今回の実習にあたり、後援会の皆様には温かいご支援をいただき、誠にありがとうございました。誰もが何かしらの困り感や生きづらさを抱えながら生きていく中で、臨床心理士としてどのような関わり方や支援ができるのか、今後より一層勉学に励んでいかなければならないと改めて思いました。そして共に悩み考え、前に進んでいくことができる臨床心理士になれるよう頑張ります。

◆「京都・奈良史跡巡見」報告

人文学科3年　**緒方　朱華**

日本史系ゼミの私達は、2018年９月26日から29日の４日間、専攻している日本史についての見聞を深めるため、京都府と奈良県の遺跡や史跡を見学してきました。本報告では４日間の巡見の活動と学習成果について報告します。

１日目は、京都御所、二条城、神泉苑、八坂神社を巡りました。特に、二条城の二の丸御殿は建物自体の造りだけでなく、建物内部の壁画、欄間などのしつらえの荘厳さを肌で感じることができました。

２日目は始めに、桂離宮へ向かいました。桂離宮の庭園は、書院群と自然が調和しており、周辺と隔絶された世界がありました。庭園の植物は四季を問わず楽しめるよう植えられており、目線を上げれば美しい月を愛でることができるような庭園造りが施されていました。古人も喧噪を離れた桂の地で平穏のひとときを過ごしていたことを感じました。その後は、古くから天台宗の信仰の拠点とされていた三千院と寂光院、現在もなお、京の人々に親しまれている下鴨神社、吉田神社をめぐりました。

３日目は東寺に赴いた後、奈良に向かい、東大寺、正倉院、興福寺、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡を見学しました。東大寺では、南大門等の建築物の壮大さに圧倒されつつも、大仏殿の盧舎那仏像を始め、幾つかの仏像を拝むと清澄な心持ちになりました。薬師寺においては、国宝の薬師三尊像等多くの仏像を拝見しました。薬師三尊像の端正な顔つきと共に、薬師如来が鎮座する台座の精巧な彫刻にも目を惹かれ、仏像彫刻の繊細さを目の当たりにしました。

最終日は、慈照寺銀閣を訪れた後、知恩院、青蓮院に向かいました。慈照寺の観音殿等の建造物、銀沙灘や向月台を含む上下２段の庭園は幽玄な佇まいでした。特に上のお庭の木々の間から見下ろす景色は素晴らしいものでした。青蓮院の、華頂殿から臨む庭園は優雅なものでした。池が小御所の高欄の下に入り組むように伸びており、建物の中にいながらも足下に池があるような錯覚があり、他の庭とは異なる青蓮院独自の意匠を凝らした庭園を拝見することができました。

今回の巡見では、現地に赴くことでしか味わえない、史跡や遺跡周辺の様子、細微な部分までも体感し、見学することができました。今後の学習や研究の更なる意欲向上にも繋がり、非常に貴重な経験になりました。今回の経験を生かして、今後の学習や研究に取り組みたいと思います。

◎各種実習への支援（国外）

◆「ヨーロッパ研修旅行」の報告

経済情報学科3年　**鬼束　章悟**

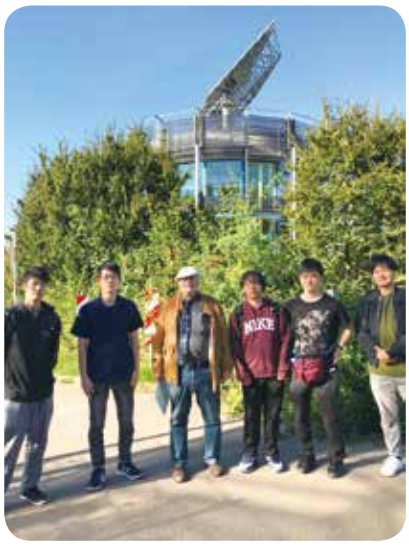
９月11日から20日まで、私たちはフランスのストラスブールとドイツのフライブルグを中心に研修を行いました。研修の主な目的は、コンパクトシティの核となる旧市街について、その歴史的・文化的特徴を知り、市電（LRT）と自転車を活用した旧市街の公共交通システムを実地に見学・体験すること、また「環境首都」として知られるフライブルグでは、環境先進地区ヴォーバンを視察することでした。

今回、様々な都市を見て回った中で、私は日本との都市の作りの違いと同時に行動力の違いについても感じ取ることができました。そこで、私はどのような部分にそういった要素が表れていたのか、もう一度考えてみることにしました。

まず私が感じた日本との大きな違いは、移動の際に利用する公共交通機関の形です。日本では車を中心とした交通整備が普通ですが、私が訪れた都市では市電（LRT）や歩行者・自転車を優先した構図になっていました。研修前にこのような交通機関の形

については予習済みでしたが、実際に現地で目にすることでその違いがはっきりと見えてきました。さらに、環境先進地区では市電が発する騒音を小さくする作りや、市電の窓を大きくすることで中と外から見やすくするといった、市民に対する気遣いが見えてきました。

また、研修前の私は市民による街が実際にどのようなレベルなのか、あまり想像ができていませんでした。しかし研修で、実際にガイドの方による環境先進地区ヴォーバンの案内と解説を聞いてみたところ、私の予想以上に市民の力が強く働いていました。なにより、今の街の様子にたどり着くまでの過程を詳しく知ることで、なぜここまで日本の街並みと差があり、その違いを土地と組み合わせながらうまく活用できているのかについて、理解を深めることができました。この国や都市による違いを知ることができたという経験は、将来どこかで役に立てることができるに違いありません。



以前私はヨーロッパ以外の国に一度行ったことがありました。今回も変わらないだろうと思っていましたが、その時とは違った価値観がまた一つ増えました。二度の海外を体験したことや、その国独特の文化・長所・改善点に気づくことができた意味は、私に今の日本が吸収すべきものとそうでないものを見極めるいい機会になりました。これから、またどこかで何かを学ぶことができるなら、違った視点からその国・街を捉えるようになれればと考えています。

◎大学院生の学会発表への支援

◆第42回　社会言語科学会発表報告

地域政策科学専攻1年　**張　暁娜**

私は現在、鹿児島大学法文学部地域政策科学研究科に所属し、社会言語学を専門として勉強しております。大学時代から、私は中国語と日本語間の言語接触の現象について興味を持ち、研究し続けてきました。両国は同じ漢字文化圏に属しているため、語彙間の貸し借りが活発に行われてきました。中日間言語接触の結果の一つとして、中国語には数多くの日本語由来の外来語が存在しています。私はこの「中国語における日本語由来の外来語」、特にその中の「日源新詞」を研究対象とし、それらの語彙の中国語においての受容状況を明らかにするという目的を持って研究を行っております。

1978年の中国の「改革開放」政策が実施されて以来、“萌”（萌え）等のように、中国語に取り入れられた日本語由来の外来語は「日源新詞」と呼ばれています。本発表は日源新詞の定義と判別基準を明確にした上で、新詞辞書、先行研究そしてメディアから集めた語について、受容パターンと意味の２つのレベルに見られる受容の特徴について報告しました。

その結果、得られた296語の日源新詞の受容パターンに関する特徴は、①受容パターンが増えたが、借形語が依然として一番多いこと、②音訳語が以前より徐々に増えていること、③日本語由来の形態素の生産力が高いことがわかりました。意味レベルにおいては、①「暴走」を例に日源新詞の受容状況を考察した結果、日本語が中国語に輸入される時には、意味する範囲の拡大／縮小、語の評価的含意の極性の変化、意味の派生、および意味の転換等の変容が観察されること、②漢字が語彙の意味理解へ影響をもたらすことがわかりました。

私はこの研究成果を、広島大学で開かれた社会言語科学会第42回大会（2018年９月22日～９月23日）において、「中国語における日源新詞の受容－日源新詞の判別とその受容について」というテーマで発表させて頂きました。この学会では、社会言語学専門の先生方や大学院生が集まり、私の研究に関する不足点、そして今後の研究の展開など、数多くの貴重なご意見を頂きました。そして、第一線で活躍されている研究者の発表を聞かせて頂き、新たな研究テーマや研究手法などを勉強することができ、とてもいい経験になりました。

今回の参加にあたり、鹿児島大学法文学部後援会から旅費の一部の補助を頂き、ありがとうございました。ご支援のおかげで、私費留学生である私の経済的負担が軽減し、学会参加することができるようになりました。この場を借りて深く感謝いたします。今後もご支援宜しくお願い致します。

平成30年度 保護者アンケート 集計結果

法文学部学生生活委員会では、２年ごとに保護者等向けアンケートを実施しております。アンケートの実施方法は、法文学部および大学院人文社会科学研究科の保護者等の皆様を対象に、平成30年６月に後援会総会の開催通知に同封し、1079名の保護者あてに送付して、421名の方から御回答いただきました（回答率：39%）。お忙しい中、御協力いただき、誠にありがとうございました。

さて、今回のアンケートでは、８割を越える方が、学生が本学部・研究科で学んでいることに「非常に満足」又は「満足」と回答されており、大変有り難い結果となっております。また、スタッフとして励みになるお言葉も多くご記載いただく一方で、様々な貴重なご意見もいただきました。誠に有り難うございます。国立大学の実態上、ご意向に沿った改善を行うには多くの困難を伴うものもありますが、ご回答の選択項目も含めまして、今後の法文学部及び人文社会科学研究科に役立てたいと思います。あわせまして、学部からの情報提供に不足があったと思われる点につきまして、可能な部分についてはこの場を借りまして最後に申し訳程度の説明を掲載しております。ご参考になることがあれば幸いです。

今回のアンケートをもとに、保護者の皆様の御期待に添えますよう、今後もより一層、教育の充実に取り組んで参りたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。　　法文学部学生生活委員会

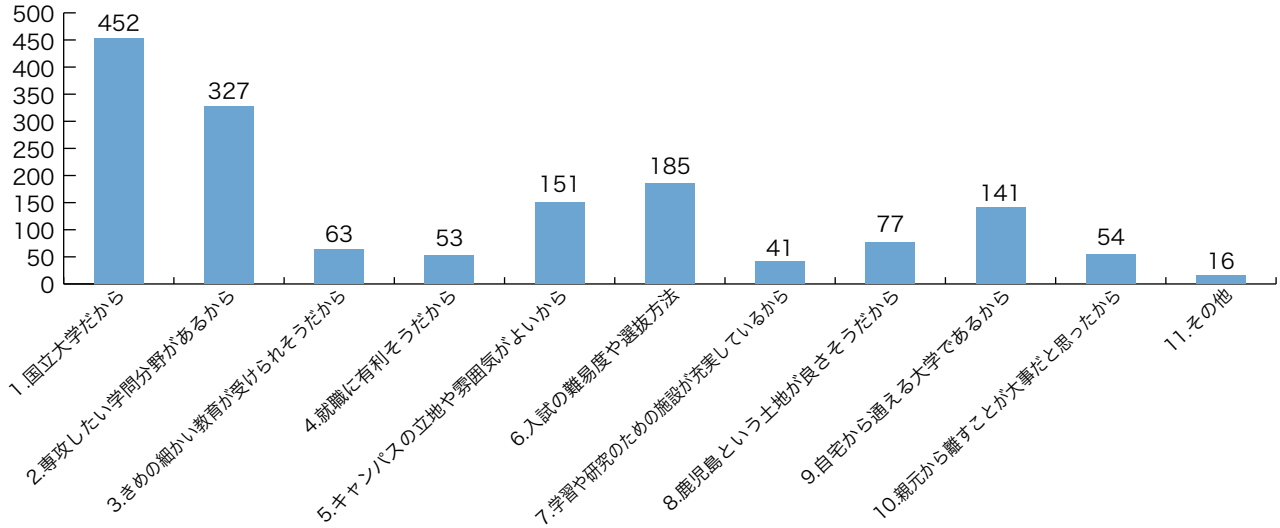
◆学生ご本人についてお答えください

【学生の所属】

◆学生ご本人の入学及び在籍中の教育等に関してお答えください

①学生ご本人が本学部･本研究科を選択した際に重視したことは何ですか。

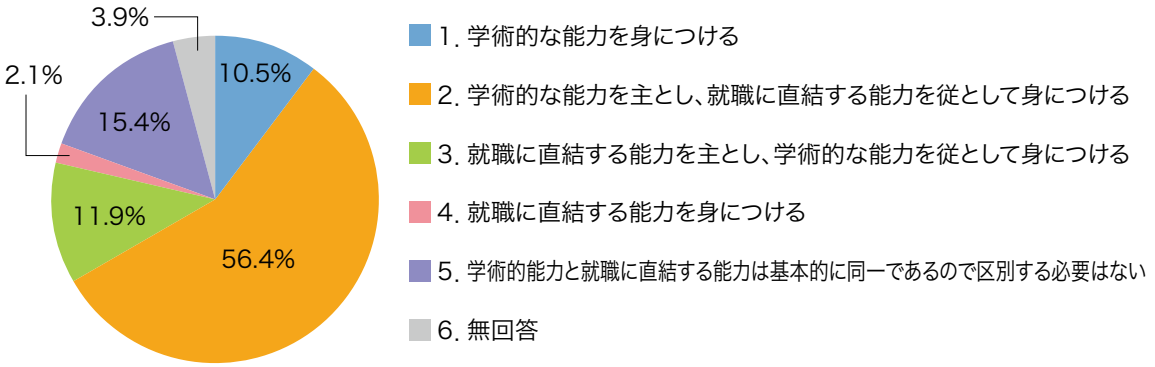
以下の項目から当てはまるものをすべて選んでお答えください。



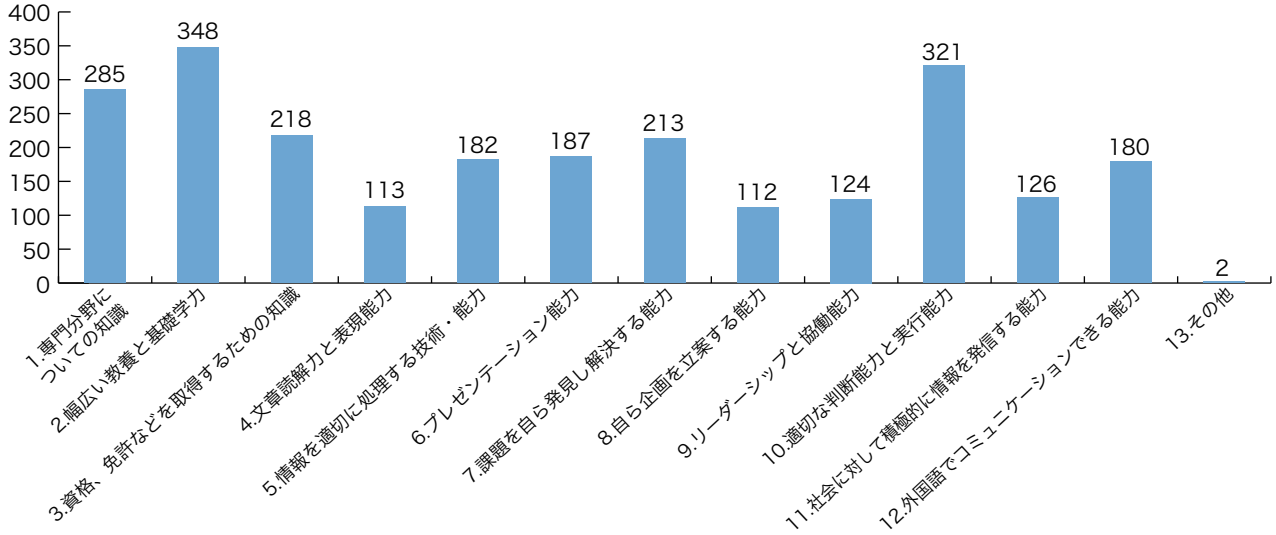
その他：「親の出生地で親族が居住」、多数の学部のある総合大学で様々な学生と交流があり刺激を受けられる、「高校の先生の薦め」、九州内国立、「カナダへの留学がある」、「大学院がある」、兄弟姉妹が在学、「本人の希望」、「臨床心理学研究室に進みたいため」、「公務員を目指すため」

②本学部・研究科での教育の目的について、どのようにお考えですか。
以下の項目から一つ選んでお答えください。

【教育の目的】



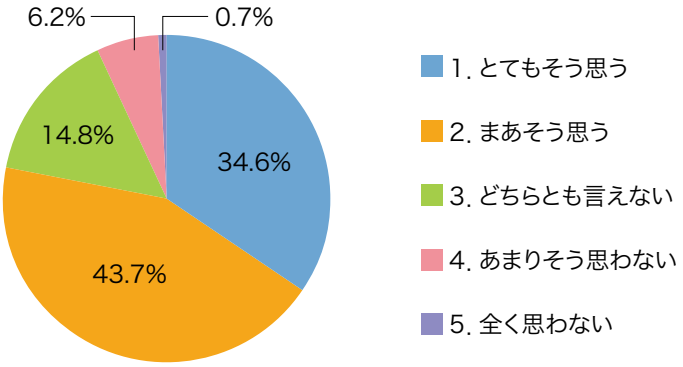
③学生ご本人が本学部・本研究科でどのような知識・能力を修得してほしいとお考えですか。
以下の項目から当てはまるものをすべて選んでお答えください。



その他:「本人に任せる」、「人のコミュニケーション力」

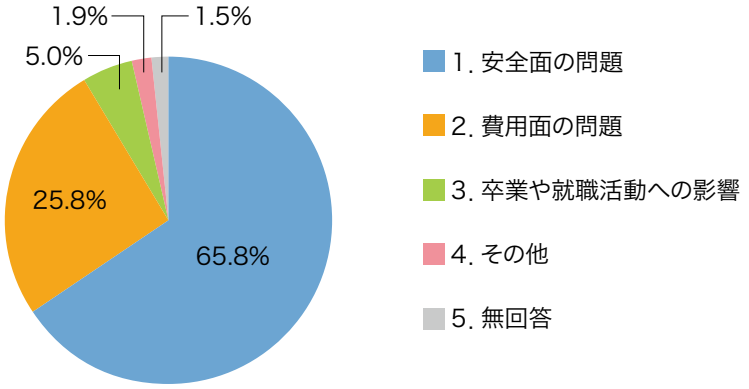
④学生ご本人の海外留学についてお答えください。
④－1　学生ご本人に海外留学をしてもらいたいとお考えですか。以下の項目から1つ選んでお答えください。

【留学希望の有無】



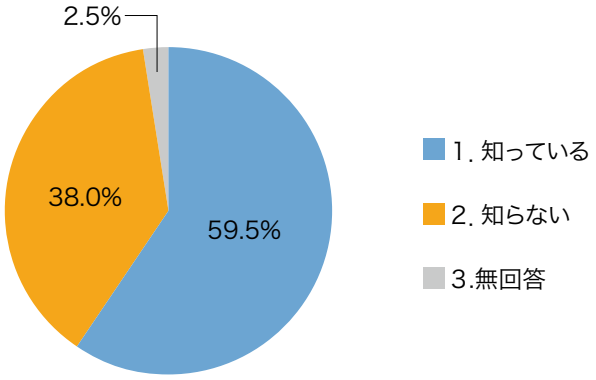
④－２　海外留学について、最も懸念されることは何ですか。以下の項目から１つ選んでお答え下さい。

【留学への懸念事項】



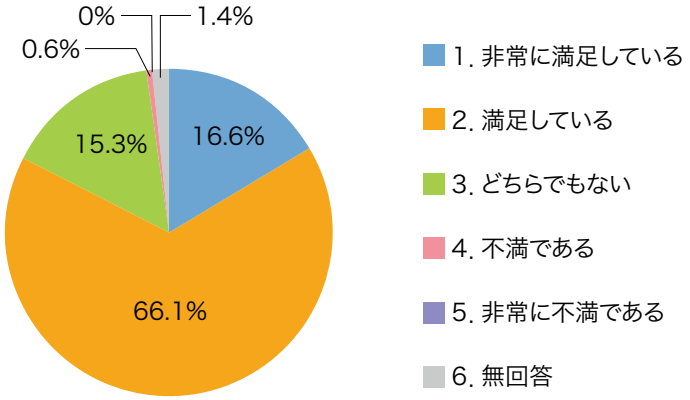
④－３　学術交流協定を締結している海外の大学との交換留学の制度があることをご存じですか。

【交換留学制度の認知度事】



⑤学生ご本人が本文学部・本研究科で学んでいることに満足していますか。

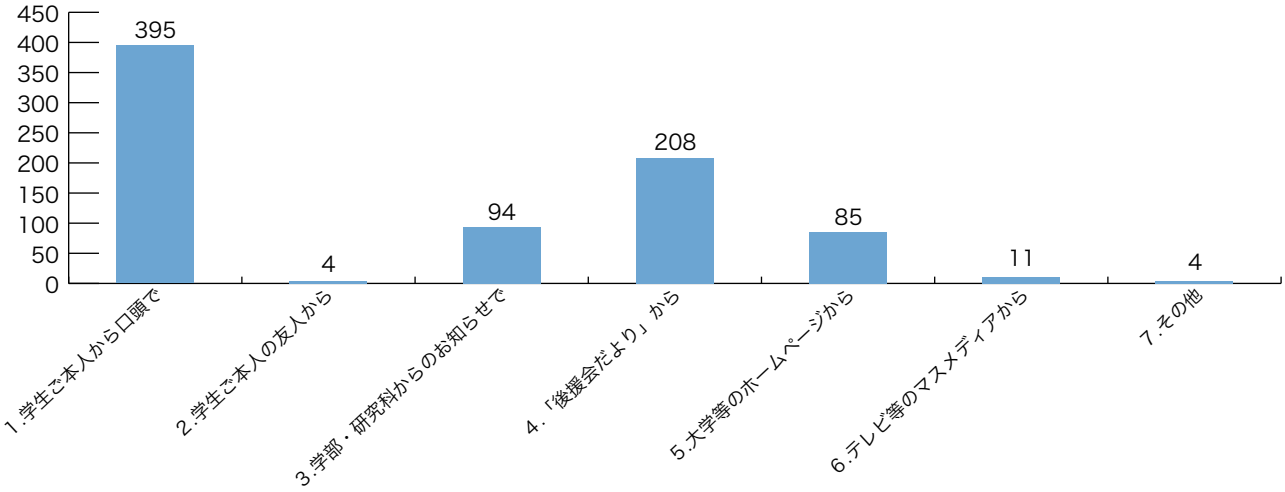
【本学部・本研究科で学ぶことへの満足度】



◆本学部・本研究科からの情報提供についてお答えください。

①本学部・本研究科の動向や学生ご本人の学習等についてどこから情報を得ていますか。
以下の項目から２つまで選んでお答えください。

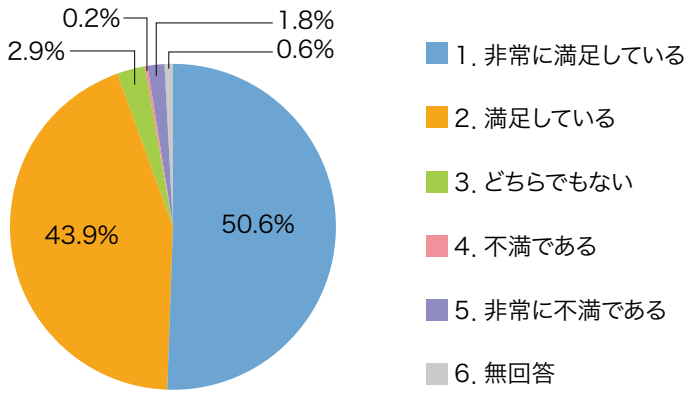
【情報源】



その他:「本人とのメールなど」、「あまり情報を得ていない」、「まったく情報を得ていない」

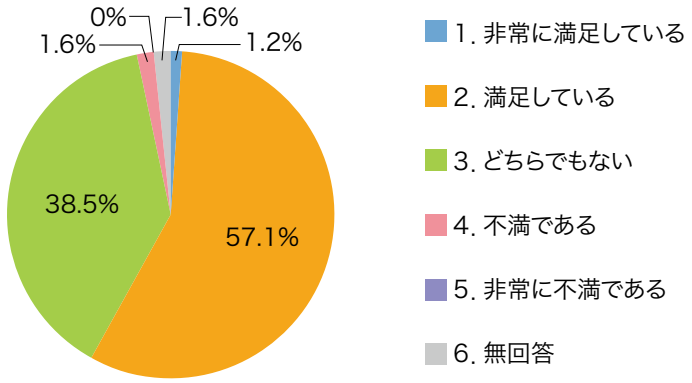
②本学部・本研究科からの情報提供に満足していますか。

【情報提供への満足度】



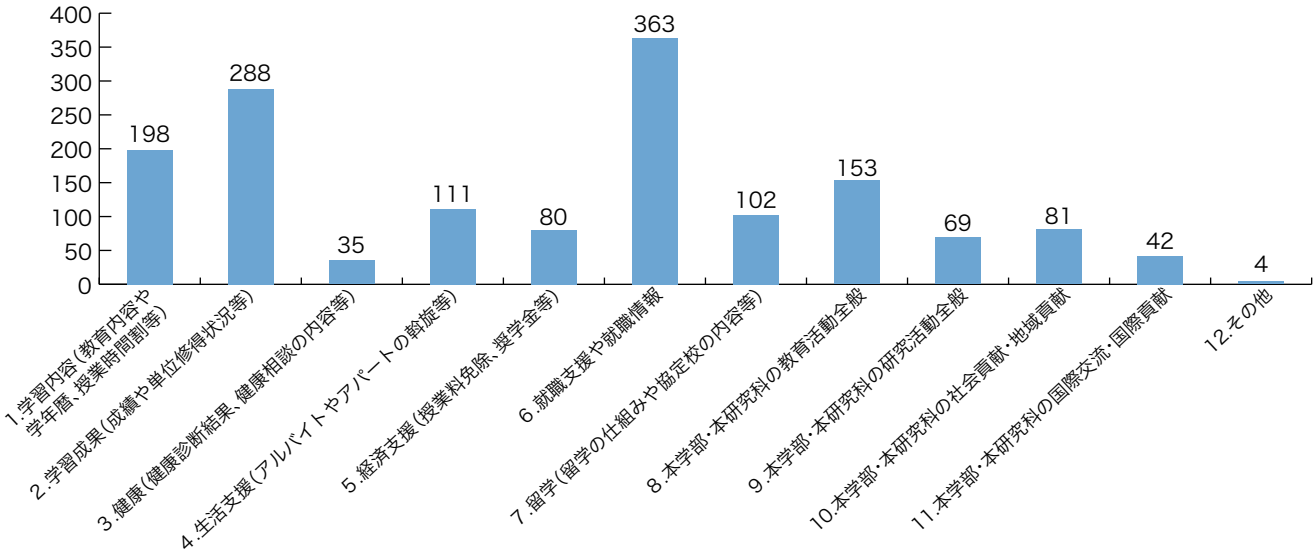
③「後援会だより」(年１回)の内容・刊行頻度等について満足していますか。

【後援会だよりへの満足度】



④学生ご本人に関連して、もっと知らせてほしい情報は何ですか。
以下の項目から、4つまで選んでお答えください。

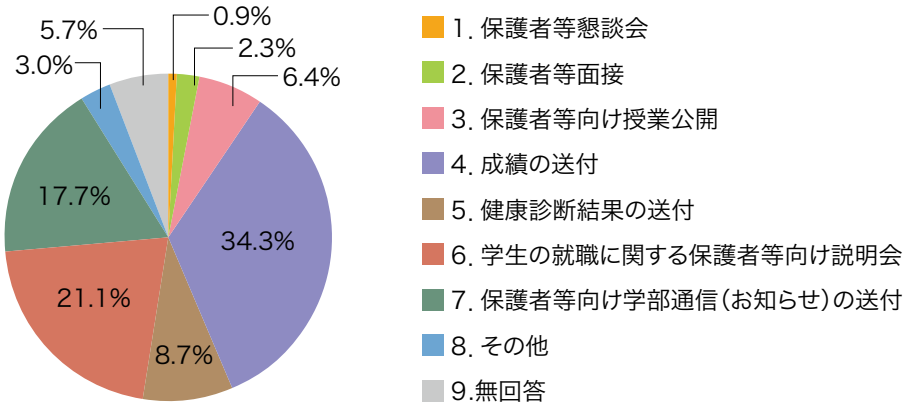
【知らせてほしい情報】



その他:「大学院への進学状況」、「ゼミ等に配属するにあたっての研究室情報」

⑤保護者向けに実施してほしいことは何ですか。
以下の項目から1つだけ選んでお答えください。

【実施希望事業】



◆その他

「卒業生の紹介（HP上で良いので月単位で様々な職種の方々を紹介して頂きたい。卒業生から在学生へのメッセージなど。)」「就職に向けての流れをいろいろなパターンで示していただきたい。どのタイミングで何をするか、学んだ方向からどう道を変えることが可能なのかなど」「鹿大の教育を信頼していますので、あまり必要ではありません。私大ではないので、堂々とやっていただければ十分です。今の風潮は過保護気味でおかしいと思います。」「鹿児島大学に入る事が出来て本当に良かったです。すばらしい大学、地域で、熊本から出してよかったです。ありがとうございます。」「就職状況のお知らせ」「鹿児島県外の就職情報」「在学中に取れる資格の説明」「前期の成績は郵送されてきましたが、後期の成績が届いておりません。」「公務員希望者・保護者への講座や就職への流れ等の説明会」「大学生になれば本人次第」「何も求めない」

◆その他要望やご意見等（※項目の関係上、一部改変・分割しています。）

● 教育・研究・成績通知

◇地域と連携した研究・講座の積極的展開に期待。学生のフィールドワークの機会拡大。

◇いつも娘がお世話になっております。試験は本当に大変そうですが、講義がおもしろいと言い、今迄苦手だった学科の勉強をしようとしていると聞き、大変驚きました。又、とても嬉しく思いました。有難うございます。

◇感動した講義・講演会があった時は、報告がありますが、1年次に比べ、2年生になってからは回数（1回だけ）も激減しています。心の成長段階とうけとめております。社会に出る前の若い彼らに、学部学科の講義の中で先生の人生経験談（良きも悪きも）をコマーシャル程度の時間に組みこんで頂けたら。印象に残る講義をプレゼントして頂けたらと思います。就職してきつい時に、鹿児島大学の○○教授のあの講義の内容で僕は私は救われた！の時間がきますので必ず。（社会人1年生の子どもの最近の発言より）

◇各教室で使用するホワイトボード用マーカーを定期的に補充・確認していただきたい。使用時に、色が薄くて使えないことが多く、先生方も苦慮されているようです。板書事項が読み取りにくいと生徒達も困っているようです。

◇子供が大学に進学し、学習について親も不安がありましたが、子供本人から授業内容やレポート, グループでの研究について話を聞き、満足している様子がうかがえたので安心しました。子供が法学コースで学ぶことができうれしく思っています。本人の今後の就職活動によい影響をもたらしてくれることを望んでいます。今後とも御指導よろしくお願いいたします。

◇コミュニケーション・ディベート能力を高めるカリキュラムが不足している。総合政策（法政策＋経済・経営政策）を学ぶ事が出来る単位を増やして欲しい。

◇心理学を学んでみたいとの本人の強い希望が叶い、環境や先生方の充実した学校に通えて、とても楽しそうです。今後の就職等に学びや経験が活かせる様ご指導お願いします。

◇最終的には就職することになるがそれだけが目的ではないと思っています。学習意欲を（モチベーションを持てる）引きだす授業や研究を望みます。

◇連絡が遅れてしまい大変申し訳ございません。出張等で連絡が遅れてしまいました。これからの社会は日本にいても外国人と接する機会、仕事をする機会が増えていくので、語学教育に力を入れてほしい。また、九州という土地柄、自分をアピールすることが苦手な人も多いと思われるので、プレゼンテーション能力向上を目的とした教育にもさらに力を入れてほしいです。

◇お世話になっております。本人が意欲的に学問に取り組むことが一番ですが、今の時代、学生に合った魅力あるカリキュラムの導入、ご指導に期待しています。今後ともよろしくお願いします。

◇希望していた授業が人数の都合で受けられないという話を聞きました。それが本当であれば本人(学生) のやる気を削ぐことになってしまうと思います。勉強したいものを勉強できる環境を作ってほしいと思います。

◇授業・研究のさらなる充実をお願いします。大学の発信力をさらに高めていただきたいと思います。

◇いつもお世話になっております。本人からほとんど情報がないので心配しておりますが, 自分なりにがんばっているようですので、応援しています。成績や単位についてもう少し知る機会があるとありがたいです。

◇他の学部は同じ時期に成績表など送付されてるようですが、法文学部は遅かったり来なかったりで困る。大学に行き出席しているのか本人まかせでまた行っていると思っていたのに実は行かず留年してる学生多いと聞きます。工学部は試験でおとすと即留年と厳しいと。法文学部ももう少し厳しく子供達に危機感をもたせてほしい。就職しきつく感じ退職する人が多いので大学からきつい方がよいと思います。

◇一年生の時には自宅（保護者）に送付されてきた成績表が二年生以降送付されてこないので、単位がきちんと取得されているか心配しています。本人に聞くと大丈夫と返ってきますが、進級にかかわることなので、親元にも送付して欲しいと願っています。

◇大学生の学習面の内容や活動等につき、少し具体的に教えてほしいです。

● 学生生活・健康管理

◇HP 上で卒業生と在学生が交流できるコーナーがあると良いのでは？

◇健康診断の項目を増やしていただきたい。現在は身長・体重測定と血圧測定のみと聞いています。有料でもいいので検尿、レントゲン、採血を追加していただけないか。

◇親の関与は最低限に。と思っています。が、遠方なので、健康面や理由なく欠席が続くといった時は連絡をしてほしいで

す。

● 留学関係

◇留学についての情報、費用などについて詳しく知ることができたらと考えています。

◇交換留学等、留学に関する情報提供を希望いたします。保護者向け説明会や留学後の報告会があれば、拝聴したいと思います。

◇交換留学についても本人が話しておりました。もし留学が決まった際は、親元にも詳しい内容の資料など送っていただければ幸いです。

● 資格・就職関係

◇教職の単位も取れるという説明で努力された方々が単位が取れないとなると将来にも大きく影響されることなので対策をとって頂きたいと思いました。

◇法文学部においての教職免許取得について、4年間を見通した大学1年前期からの具体的な単位取得のスケジュールを知りたい。

◇資格や免許等の指導ももう少し力を入れてほしいです。

◇鹿児島大学は就職活動が遅れているように感じます。大学は勉強する場ですが、後の生活の事を考えても積極的な就活体制を指導していただきたいと思います。

◇学生の将来の夢や希望を叶える為の授業選択の指導を行ってほしい。年に一度学生と先生の個人面談をして上記の相談にのって欲しい。

◇地方へUターン就職をする場合のできる限りの支援をお願い致します。

◇3年生からは就職状況等少し具体的に教えてほしいです。

● 進学・大学院

◇今年大学４年生になり、今後の進路について、就職ではなく、進学したい希望があり、親としては、大学院についての情報、費用などについて詳しく知ることができたらと考えています。

● 後援会について

◇後援会だよりは安心感を得られます。学生個人に焦点を当てた記事をもっと出して良いかもしれません。

◇総会や懇談会が午前中もしくは日中にあればよかった。夕方から夜は難しい。

● 上記以外または全般的な情報提供関係

◇本年度入学したばかりなので、アンケートの内容もよく分からないままの回答もありました。本人ともあまり会えないので、もっとホームページ等で、学生の様子などを発信していってほしいです。

◇保護者向けの情報提供に取り組まれており感謝いたします。

◇家族から初めての大学生なので大学というのはこういうものかな?! と…。また一人暮らしをしているのでいろんな心配はありますが、自立のための準備期間だと思って見守っています。ただ、大学の情報を本人から聞くだけで、あまりよくわからないところがあります。私自身親として勉強不足とは思いますが、もう少し大学というものを身近に感じ、知りたいと思います。

◇オープンキャンパスに参加して親子で進学を考えました。オープンキャンパスの充実を願っています。先生方や先輩方と初めてお話しする機会となり、思い出に残っています。

● ご感想全般・その他

◇今年大学入学し、何もかも初めてのことだらけで、おたずねすることも分からない状態です。日々を精一杯過ごしている子どもと共に、この１年を終える頃には多少慣れてきて、何かに気付けるのではないでしょうか？２年次のこのアンケートでは、何かしら記入できると思っています。

◇これからもよろしくお願いいたします。

◇いつもお世話になります。本人も貴学での学校生活を満喫しているようです。今度もご指導のほどよろしくお願いします。
◇特にありません。
◇充実した学生生活をスタートすることができました。たくさんのことを学び、人間として成長してほしいと願っています。御指導よろしくお願いします。
◇大変良く学ばせて頂いております。本人の様子より学校の良さが伝わってきます。ありがとうございます。
◇大変お世話になっております。親元から離れていますが、のびのびと充実した学生生活を送らせて頂いているようで感謝しております。これから就職活動等あり皆さんと乗り遅れずに活動できるのか不安ですが、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します
◇お世話になります。よろしくお願いします。
◇いつもお世話になります。入学当初は慣れない大学生活に戸惑い、不安が多かったようですが、楽しく意欲的に大学生活を満喫しているようです。どうぞ4年間よろしくお願いします。
◇大学で３年半学べたこと、本人にとって大切なものとなっていると思います。残り卒業までの間よろしくお願いします。
◇入学したばかりでよくわからないので、今のところありません
◇いつもお世話になり感謝です。娘も充実した大学生活を送ってることがうれしいです。よろしくお願いいたします。
◇我が子は今年度で卒業予定ですが、有意義な学生生活を過ごしていたように感じます。ありがとうございました。今後、本学部の活動等、マスメディア等を通して応援することができればいいと思っています。
◇人間として、大人としての生き方を大学として子供に示してもらえばそれで可です。
◇深く学び、成長してくれることを願っています。4年後の子供の成長を楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。
◇お世話になっております。今後もよろしくお願いいたします。
◇質問が難しく答えにくいでした。答えてない質問がいくつかあり申し訳ございません。
◇より良い大学、学部になり、学生が心に残る学生生活になるよう保護者はただ祈る思いです。よろしくお願い致します。
◇本人は学び行動する楽しさを知り充実した学生生活を送っているようです。そのように方向性を示してくださる先生方の取り組みに感謝し、安心もしております。

おわりに

貴重なご意見を多くいただきましたが、この場をお借りしまして担当部署より情報を得られたものを含み、特に情報提供になればと思われることについて下記に示します。一部ご指摘の趣旨と異なるところもございますが、多くの皆様へのご参考になればという趣旨ですのでご海容いただければ幸いです。

１. 成績通知について

後期の成績が届いていないというご指摘を多く受けました。現在、法文学部では、年に１回10月上旬にのみ保護者等の皆様への成績通知を行っています。成績通知の回数や時期についてのご説明は特にしていなかったということで申し訳ありません。回数につきましては貴重なご意見ということでお預かりいたします。

２. 大学院入試の情報について

他大学の大学院についての情報は、募集要項が送付されてきたものについて、就職支援室で随時閲覧可能な形で情報提供しています。

本学人文社会科学研究科についての情報は、例年６月上旬に募集要項およびパンフレットが発行され、同時期にホームページに掲載しております。また、７月上旬と12月上旬に大学院入試説明会を実施しています。

3. 就職・資格関係

就職傾向の情報につき公開しているものや在学中に取れる資格の説明は、法文学部ホームページやパンフレットに記載しています。資格については、学生に配布している「修学の手引」に記載されています。

なお、教職免許取得については、1年後期（例年2月）に「教職ガイダンス」を学生向けに実施し、「教職カルテ」と「教育職員免許状取得ガイド」を配布して、スケジュール及び単位の取り方を指導しています。

4. 学生の健康管理について

国立大学の予算削減の影響により、鹿児島大学の学生定期健康診断では、平成26年から28年にかけて胸部X線検査を新入生にのみ実施、平成28年には尿検査が、誠に遺憾ながら廃止となりました。現状においては大学として有料であっても追加の実施はできない状況のようです(なお、血液検査は結核治療中あるいは高蔓延地域1ヶ月以上滞在者、および有害化学物質取扱い者についてのみ実施しています)。他方で、保健管理センターでは一般診療や健康相談を行っています(通常は平日16時まで)。医師が常駐し可能な限りの対応をしているので、体や心の不調については、すぐに相談していただきたいと思います(感染症のおそれのある場合には事前に電話連絡のこと)。診察と医師の判断により行われるその場で可能な検査は無料です。

5. 法文学部ホームページについて

従来ご指摘を受けております法文学部ホームページですが、限られた人員、予算の制限の中で少しずつ改善を図っております。来年度には、学生用に必要な情報提供の充実とともに、在学生や卒業生の活躍を紹介する企画を進めていますことをご報告申し上げます。

貴重なご意見や励ましとご理解の記載を誠に有り難うございました。重ねて御礼申し上げます。

平成30年度後援会役員一覧

会　長：堂路温幸　　副 会 長：田中孝子
顧　問：高津 孝　　常任理事：金丸 哲
理　事〔保護者・社会人学生(本人)〕：
（経済情報学科）堂路温幸
（法経社会学科）南 芳浩
（人文学科）末吉 公子、竹内喜恵
（人文社会科学研究科）寿 洋一郎
（臨床心理学研究科）田中孝子

理　事〔教　員〕：
（法経社会学科）米田憲市、農中 至
（人文学科）横山春彦、兼城糸絵
（臨床心理学研究科）宇都宮敦浩
監　査：野間尚宣、澤田成章
監　事：西 信博

問い合わせ先　**鹿児島大学法文学部後援会事務局**
〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30　電話099-285-7510（7602）　FAX 099-285-7609
E-mail kouenkai@leh.kagoshima-u.ac.jp　後援会ホームページ　http://www.kadai-houbun-kouenkai.jp/